

# 県南家保だより



平成26年4月28日  
栃木県県南家畜保健衛生所

新年度となり、心機一転！となるはずが、昨年度から全国的な豚流行性下痢の感染が続いています。感染の拡大を防ぐためにも、より一層の消毒等の徹底による防疫強化に御協力をお願いいたします。

さて、今年の春は気温差が激しく、最近まで晩霜注意報が出されていましたが、このところ気温は一気に上昇し、20℃を超える日も出てきました。私たちにとっては、嬉しい穏やかな季節の訪れですが、実は私たちだけではありません。最近、畜舎で何かが動き始めていませんか？そう！やっかいものの“ハエ”なんです。



畜舎で見かけるハエは1匹だけだよ。心配ないさ！

ハエを見かける以前に、ネズミがいるようならば、まずネズミの対策をとることが大切です。様々な病気を媒介するだけでなく、飼料の品質低下や漏電などの原因にもなりかねません。駆除をしっかりと行いましょう。

さてさて、ネズミが見かけた1匹のハエ。本当に大丈夫なのでしょうか？

畜舎には、イエバエを始め、ヒメイエバエ、オオイエバエ、サシバエなどがいます。ハエにより若干の差はあるものの、ハエは気候が良い時は、約10日間で成虫になり、雌の成虫は1か月ほど生存します。その間に1回に50~150個の卵を5~6回産卵します。

つまり、単純計算では1匹のハエが畜舎で産卵して増えていくと、1か月後には最大7万匹の成虫と340万匹の幼虫が畜舎内にいることとなります（「JA東京みどり 営農レポート55号」より一部抜粋）。まさに、ネズミも驚く“ネズミ算”です。



畜舎のハエは慣れっただけど、やっぱり嫌だよ。

ハエがブンブンと自分の周りを飛び回っていたら、たとえ1匹でもうるさいですよ。さすがは“五月蠅い”と書くだけあります！対策をしていない畜舎には、数えきれないほどのハエがいますから、家畜にとって、それはそれは大変なストレスになります。

ストレスによって生産性が低下するだけでなく、病原体を運び衛生環境を悪化させることにもつながります。近隣住民から苦情が来てしまうかも知れません。ハエに名札はついてないけれど、畜産全体のイメージダウンになってしまったら悲しいことです。



こんなに増えちゃうんじゃ対策しないと。どうしたらいい？

ハエの増殖を防ぐには、ハエの産卵場所を清掃したり、適正な薬剤を使用する等の方法が効果的です。

### 1 常に清掃を心がけましょう！

ハエは、家畜の糞や飼料の食べ残し等に産卵します。まずは、卵を産ませないようにしましょう。特に水に濡れた飼料はハエの大好物です。

### 2 家畜糞や飼料残渣の適正な処理を行いましょう！

糞尿等の堆肥化処理により、発酵熱が生じるので、産み付けられた卵やウジを殺すことができます。

### 3 薬剤の使用によりウジの発生を予防しましょう！

1 または2の対策を実施することが重要ですが、こまめな除糞や清掃ができない場合は、薬剤散布による対策も効果的です。

成虫になって飛び回っているハエに殺虫剤を吹きかけるよりも、ウジになる前に対策を講じることで、ハエの発生を大幅に減らすことができます。

以下の方法を参考に、適切な使用を行い、卵・ウジ・ハエの全てに対し、きちんと実施していきましょう！

成分	特徴	主な製品名
ピレスロイド系	微量でもよく効き、速い効力を示します。昆虫や魚類にも効いてしまうので注意が必要ですが、哺乳類・鳥類に対しては比較的安全で、環境にも優しい薬剤です。	キンチョール ETB 乳剤 スパレン乳剤 バイオフィライ フタスミン 等
有機リン系	種類が豊富であるが、殺虫剤抵抗性を獲得しやすいので注意が必要です。残効性に優れるものが多いのが特徴です。	スミチオン DDVP ネグホン ダイアジノン 等
カーバメート系	比較的速い効力を示しますが、有機リン系と同じく、哺乳類にも作用してしまう特性があるので、使用時には十分注意してください。	サンマコー バリゾン 等
昆虫成長抑制剤 (IGR 剤)	遅効性だが、人畜毒性も低く、残効性に優れています。 昆虫の脱皮、蛹化、羽化を阻害します。	サイクラール ネポレックス デミリン 等

